

---

釧路湿原自然再生協議会  
第2回地域づくり小委員会

地域づくり小委員会の当面の検討事項に係るアンケート実施結果について

---

# 地域づくり小委員会の進め方について

本小委員会で議論する  
「地域づくり」とは？

## 湿原と持続的に関われる社会づくり

（湿原の保全と湿原に与える負荷を減らすような環境に配慮する産業や、環境にやさしいライフスタイルを確立・普及するなど、流域全体で湿原とともに生きる豊かな地域づくり）

## ＜小委員会の具体的な進め方＞

行為目標の実現に向けて、各委員が所属する機関での実施事業、取組事例などの情報提供やその他産業間の連携などに関するご意見をいただき、行政機関の各種施策はもとより、地域での産業活動や住民・市民団体等の保全・再生活動を促進する。

### 【当面の検討事項（事務局案）】

- 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方  
（観光商品開発・湿原利用ガイドライン・観光支援施策 など）
- 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方  
（自然再生活動への取組・湿原保全活動による生產品のブランド価値向上策 など）

第2回以降の小委員会では、上記検討事項について各関係機関の取組状況や今後の方針・方向性などについて情報提供いただき、その後の具体的な取組や関係機関の事業について議論いただく。

## アンケート回答状況

個人 6名、団体 9団体、オブザーバー 1団体、  
関係行政機関 1機関、合計 17名の委員からご回  
答を頂きました。

ご回答頂いた皆様ありがとうございました。

# アンケート内容

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

- うまく湿原を活用するアイデアや、地域活性化のために議論したいことは？
- 湿原の環境を維持しながら湿原を利用するために必要と考えていることや、地域づくり小委員会で作りたいガイドライン・ルールなどは？
- （観光商品開発・湿原利用ガイドライン・観光支援施策 など）

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

- 「地元産業と他の団体が協力すると、こういう事ができるのではないか！」というアイデアや、あなたが「地元産業へ、こんな協力をしたい！」と考えていることは？
- 将来に渡って釧路湿原を利用していくために、産業や地域のくらしの中で環境や景観を守るために必要だと感じていることは？
- （自然再生活動への取組・湿原保全活動による生産品のブランド価値向上策 など）

## 設問③ 今後の議論の進め方について

- 今後の地域づくり小委員会での議論の進め方や、方向性について何かご意見がございましたら、ご記入ください。

## 設問④ その他

- その他、委員の皆さんと話し合いたいこと等があれば、自由にご記入ください。

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

- うまく湿原を活用するアイデアや、地域活性化のために議論したいことは？
- 湿原の環境を維持しながら湿原を利用するために必要と考えていることや、地域づくり小委員会で作りたいガイドライン・ルールなどは？
- （観光商品開発・湿原利用ガイドライン・観光支援施策 など）

※回答の並びは順不同です。また、回答して頂いた設問欄と整理後の設問欄が異なる場合があります。

## 回答のまとめ〔設問①〕

### 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

#### ■ 観光商品開発について（1/2）

No.	回 答 要 旨
2	湿原（泥炭）のフワフワ感など実際に湿原に入って体感できるようなエリアを設ける
2	冬期の釧路湿原の適正な利用促進のための利用ガイドラインやコースづくり
6	冬期の魅力で他の地域と差別化（ウィンターカーナーなど）
3	幼児や小学生が湿原で楽しく遊ぶ新たなアクティビティを開発（川流れ、飛び込みなど）
5	飛行船による湿原遊覧飛行
7	屈斜路湖から釧路川下流部までのカーナーマラソン

※ 表のNo. は、「アンケート・回答全文」ページの表のNo.に対応しています（以下同様）。

## 回答のまとめ〔設問①〕

### 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

#### ■ 観光商品開発について（2/2）

No.	回 答 要 旨
11	釧路湿原を一周できるフットパス&ホースライディング
11	鉄道友の会の協力で、再び湿原開拓軌道を運行する
11	地元造船業と連携して観光ホバークラフトを建造し、MOOから釧路川をラウンド観光できるようにする
12	車以外の旅行者のための公共交通機関アクセス情報や、モデルルートの設定
12	アウトドア系代理店によるファムトリップを実施
4	湿原の植物で特産品を開発

## 回答のまとめ〔設問①〕

### 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

#### ■ ガイドライン・ルール等について

No.	回 答 要 旨
1	日本語版と英語版のレギュレーションブックおよびフィッシング地図の発行
2	〈再掲〉冬期の釧路湿原の適正な利用促進のための利用ガイドラインやコースづくり
9	カヌーに加えて、釣りや写真撮影に関するガイドラインを作成

## 回答のまとめ〔設問①〕

### 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

#### ■ 広報PRについて

No.	回 答 要 旨
6	ウィンターカヌーなどを各アジア言語で広告宣伝、通訳者等の充実
9	外国人ツーリスト向けに多言語で情報発信
11	あたらしいロゴマークなどのコンペ
11	現・釧路市で行われている夏季滞在を広範囲に実施、「クール道東」を売り込む
11	空気浴(森林浴)で成人病予防の健康増進が釧路湿原でできることをアピール
12	釧路湿原国立公園アクティビティカレンダーの作成
12	外国人観光客の個人旅行化にあわせた情報発信
15	釧路湿原と道東の他の5つの登録湿地を結んだ観光商品を開発・PR

## 回答のまとめ〔設問①〕

### 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

#### ■ 観光客向け施設整備等

No.	回 答 要 旨
3	カヌーで屈斜路湖から初心者でも下れるようにハット(宿泊小屋)を作る
7	岩保木水門公園にトイレを設置
7	岩保木水門に魚類観察のためのアクリル製のハーフパイプを設置
8	道路や鉄道から見える自然再生の統一デザインの標識設置
11	世界から押し寄せるカメラマンのための滞在施設を建設
11	過去の補助事業造成農地で現在の未利用地に木道などを設置
12	駅や市中心部に湿原観光の拠点やサテライト機能
14	アクリル製のトンネルを渡す事により、遡河性魚類等を下から観察する場を創る

## 回答のまとめ〔設問①〕

### 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

#### ■ その他

No.	回 答 要 旨
1	レクリエーショナル・フィッシングの聖地としての釧路川のブランド化を目指す
2	観光利用者を含む一般市民等との橋渡しができる地元NPO等の育成
9	地域の子ども達が湿原をガイドする機会の支援
10	釧路湿原を含んだ、流域・広域の情報を共有した考え方が必要。阿寒国立公園との連携
11	未利用草地に生育できる草木を試験栽培して、同時に食品製造の研究に着手する
12	提供する商品の見える化、オーダーメイドのためのコーディネート機能の支援
13	長期滞在で味わえる魅力を発見し、滞在期間を長く取るような取り組み
16	湿原観光の際に弁当を注文出来るシステムと、売上の一部の自然保全への還元

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
1	<p>レクリエーショナル・フィッシングの聖地としての釧路川のブランド化を目指す</p> <p>日本語版と英語版のレギュレーションブックおよびフィッシング地図の発行</p>	<p>レクリエーショナル・フィッシングの聖地としての釧路川のブランド化*****</p> <p>豊かな流域生態系の再生(サケ科魚類資源およびその生息環境の保全と再生)を通じて、レクリエーショナル・フィッシングエリアとしての釧路川流域のブランド化を進め、その魅力を外部にP.R.して自然共生型グリーンツーリズムの目玉とする事を提案いたします。</p> <p>北海道の中でも釧路川流域の持つレクリエーショナル・フィッシングエリアとしてのポテンシャルは大きく、釣り人にとって非常に大きな魅力です。しかし現状では、本州や海外のような遊魚者を対象としたルール作りは徹底されておらずまた公開情報も少ないと言えます。この為に、道外からの釣りを目的とした観光客は足踏み状態にあります。</p> <p>また同時に、密漁やルール無視のマナーの悪い釣り人と他の観光産業との軋轢が生じている事も確かです。私の提案は、自然景観の保全と流域生態系の再生を基盤とし、その魅力によって<u>レクリエーショナル・フィッシングの聖地としての釧路川のブランド化を目指す</u>ことです。</p> <p>具体的には、釧路川の釣り人の為の、<u>日本語版と英語版のレギュレーションブックおよびフィッシング地図の発行</u>を提案します。またその情報の定期的な更新とインターネットを通じた配信も必要であると考えます。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
2	<p>観光利用者を含む一般市民等との橋渡しができる地元NPO等の育成</p> <p>湿原(泥炭)のフワフワ感など実際に湿原に入って体感できるようなエリアを設ける</p> <p>冬期の釧路湿原の適正な利用促進の利用ガイドラインやコースづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釧路湿原の保全・再生に関わる取組を集約しコーディネートを行い、観光利用者を含む一般市民や学校などが、釧路湿原の保全・再生に参加・協力できるような体制づくりを行う。各サイトの自然再生事業、多様な主体が様々な切り口で釧路湿原の保全・再生を行っているワンダグリンダプロジェクト、釧路湿原の保全を配慮した地域産業などを対象とする。これらの取組をコーディネートし、<b>観光利用者を含む一般市民等と橋渡しを行うことができるような地元NPO等の育成を進める。</b></li> <li>・ 湿原の魅力や楽しさをもっと感じてもらうことはできないか。例えば、<b>湿原(泥炭)のフワフワ感など実際に湿原に入って体感できるようなエリアを設ける</b>など。(国立公園普通地域の活用、人数制限やガイドの付与など持続可能な利用ができるように)</li> <li>・ <b>冬期の釧路湿原の適正な利用促進</b>(冬は天候の良さ、湿原へのダメージが少ないこと、湧水や野生動物の足音など、クロカンやスノーシューの有効活用などから)。そのための<b>利用ガイドラインやコースづくり</b>など。</li> </ul>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
3	<p>幼児や小学生が湿原で楽しく遊ぶ新たなアクティビティを開発</p> <p>カヌーで屈斜路湖から初心者でも下れるようにハット(宿泊小屋)を作る</p>	<p><u>幼児や小学生が湿原で楽しく遊ぶための新たなアクティビティを開発</u>したい。川流れ、飛び込みなど。</p> <p><u>カヌーで屈斜路湖から初心者でも下れるようにハット(宿泊小屋)を作る。</u></p>
4	<p>湿原の植物で特産品を開発</p>	<p><u>湿原などに生植する物での特産品の開発</u></p>
5	<p>飛行船による湿原遊覧飛行</p>	<p><u>飛行船による湿原遊覧飛行</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見所地点でエンジンを停止しながら低空飛行(10mくらい)</li> <li>・時にエゾシカ、ヒグマに接近</li> </ul>
6	<p>冬期の魅力で他の地域と差別化(ウインターカヌーなど)</p> <p>ウインターカヌーなどを各アジア言語で広告宣伝、通訳者等の充実</p>	<p>外国人をはじめ道外に暮らす人々にとって、<u>北海道観光の魅力とは冬の寒さ・厳しさ・不便さ</u>だと考える。北海道の冬を暖かく・穏やかに・快適に過ごしたい観光客には、札幌などの道央圏で過ごしてもらい、釧路湿原では寒さ・厳しさ・不便さを楽しんでもらう。</p> <p><u>これが差別化となり、魅力に繋がる</u>のではないだろうか。極端に言えば、札幌と同じ観光施設やサービスは意図して提供しない。<u>ウインターカヌーやドリフトボートに多くの外国人観光客を取り込めるような各アジア言語での広告宣伝・通訳者等の充実</u>を図ることを検討してはどうだろうか。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
7	<p>屈斜路湖から釧路川下流部までのカヌーマラソン</p> <p>岩保木水門に魚類観察のためのアクリル製のハーフパイプを設置</p> <p>岩保木水門公園にトイレを設置</p>	<p>エリアとしての湿原だけを前提にしては地域活性には繋がりにくいと思います。釧路川流域全体を対象として可能性を探ればいろんな可能性が見えてきます。例えば、<b>屈斜路湖から釧路川下流部(できれば幣舞橋の袂)までのカヌーマラソン</b>などは源流部から河口部まで障害物のない一級河川の魅力を生かしたイベントになります。</p> <p><b>岩保木水門にアクリル製のハーフパイプを設置</b>(例えば標津のサーモン科学館や千代田堰堤の遡上観察施設や苦小牧の鮭のふるさと館に設置されているもの)すれば、カヌーは下って来られるし、遡上の性格を持つ魚類は川を遡上し湿原でそれぞれの生命を全うできるものと考えられます。<b>岩保木水門公園</b>は人気のスポットになっています。<b>トイレの設置</b>が望まれます。</p>
8	<p>道路や鉄道から見える自然再生の統一デザインの標識設置</p>	<p>1) 湿原の保全・再生を含む地域貢献型ワークキャンプ、ボランティアツアーリズム等の振興の検討 ⇒ <b>湿原への訪問・滞在サイトへの愛着を育成し、リピーター、移住者等の獲得</b>を目指してはどうか。</p> <p>2) 自然再生の来訪者への周知 ⇒ 地域を挙げて湿原を保全し賢明な利用を目指していることを来訪者・通過者に知らせるために、<b>道路や鉄道から見えるように統一デザインの看板やサイトの存在を知らせる標識等を設置</b>する。(現在はバラバラな各種看板を統一して一体感をつくる。)</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
9	<p>カヌーに加えて、釣りや写真撮影に関するガイドラインを作成</p> <p>外国人観光客向けに多言語で情報発信</p> <p>地域の子供たちが湿原をガイドする機会の支援</p>	<p>⇒ 併せて、自然再生サイトのセルフガイド等も作成し、ビジターセンター、観光案内所、宿泊施設等に配架する。</p> <p>3) 自然愛好者へのルール・マナーの発信・定着 ⇒ <u>カヌーに加えて、釣りや写真撮影に関するガイドラインを作成</u>し、自然ガイド、宿泊施設、交通機関等に配布、発信する。</p> <p>4) <u>外国人観光客向け発信</u> ⇒ 以上に取り組んだうえで、日本のエコツーリズムの先進地として<u>多言語で情報発信</u>する。 ⇒ ビジターセンターへの外国人対応機能付加(地域おこし協力隊等の活用?)やJICA研修等の既存の仕組みも活用する。</p> <p>5) 教育的利用の促進 ⇒ 地域の子供たち(小学校～大学)が湿原を知り、体験、学習する機会(一般には入れない場所、再生事業地等)の創出、促進に向けた利用ルールづくりとPR ⇒ 修学旅行生や観光客に対して、<u>地域の子供たちが湿原をガイドする(語る)機会の支援</u></p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
10	釧路湿原を含んだ、流域・広域の情報を共有した考え方が必要。阿寒国立公園との連携	<p>■うまく湿原を活用するアイデアや、地域活性化のために議論したいことは？</p> <p>a. <b>釧路湿原を含んだ、流域・広域の情報を共有した考え方が必要。阿寒国立公園との連携。</b></p> <p>b. 再生協議会だけではなく、産業界との共有・協業の場を増やさないと活性化はあり得ないし、ビジネスとして動かさない限り自分たち(再生協議会)では無理なことだから誰が、今後、地域づくり小委員会を継続的に引っ張るのかを議論したい。</p> <p>c. 上記を解決しない限り、実施は難しいのではないのでしょうか。</p> <p>■(観光商品開発・湿原利用ガイドラン支援施策など) 「ガイドライン、商品開発」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当にするのなら、アンケートだけでは方向性が出てこない。</li> <li>・ドラフト版の考えを事前につくる、ワーキンググループの様な、組織を立ち上げそこで、練り上げないと、数年かけてもススミマセン。</li> <li>・プロの企画が必要(特に、「商品開発・観光支援施策」と、思いますが、いかがでしょうか。</li> </ul>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
11		<p>釧路湿原が国立公園に指定された当日、昭和62年7月31日、自分は釧路湿原の最深部「湿原の秘境」と呼ばれる宮島岬の先端におりました。釧路地方には珍しく暑い日でした。</p> <p>「不毛の大地」と呼ばれた、釧路湿原が国立公園に指定され、今後の自分の人生の中でも歴史的なポイントになるだろうと考えたパフォーマンスでした。</p> <p>ラジオから流れるお昼のニュースに聞き耳をたて「釧路湿原がわが国28番目、そして北海道では6ヶ所目の国立公園指定をうけました」をしっかりと聞き受けしたものでした。</p> <p>自身も、まだ33歳独身の時で公園指定を受けて間もなく30年、4人の子供の親となりすでに上3人は社会人として自立しました。</p> <p>この30年間の間に、湿原解説NPO団体を立ち上げたり、湿原を北海道和種馬(通称どさん馬)で散策する公社季節職員としても勤務させていただき、お客様に湿原の様々な顔に触れていただくガイドもさせていただきましたし、現在も北海道知事認証マスターガイド資格者(自然)として後輩解説者の育成や様々な活動をさせていただいております。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回 答 要 旨	回 答 全 文
11	<p>未利用草地に生育できる草木を試験栽培して、同時に食品製造の研究に着手する</p> <p>過去の補助事業造成農地で現在の未利用地に木道などを設置</p>	<p>■うまく湿原を活用する：            今、釧路湿原周辺では不思議な現象が見られます。            それは排水不良によって耕作が困難な牧草地(未利用湿潤草地)が湿原のほぼ全周でみられ、個人の酪農家の離農、廃農がすすんでいるのに牛の頭数は増え、生乳生産量も増えています。</p> <p>これは大規模法人農家が多くなって、1000頭規模のメガファームが多くなっているからです。</p> <p>そこで今後予測されることとして未利用地にお金と労力を投入してメンテナンスをすることよりも、現未利用地をいかに活用するかだと考えます。</p> <p>見方を変えると未利用地があるために、現湿原地域に流入し続けたであろう栄養塩類(N・P・K)などをこのバッファゾーン(緩衝地域)で吸収しています。</p> <p>そこでまず第1に現地観測に基づき未利用湿潤草地の栄養塩浄化機能を明らかにする。</p> <p>第2に緩衝帯として期待できる未利用湿潤草地の空間分布を広域的に明らかにする。</p> <p>第3に<b>未利用草地に生育できる草木を試験栽培して、同時に食品製造の研究に着手する。</b></p> <p>(湿地性低木ブルーベリーやラズベリー、盆栽用ミズゴケ栽培等)</p> <p>第4に<b>過去の補助事業造成農地で自然沈下などの未利用地を調査し、国が買い取り可能地を抽出して木道などの設置を検討する。</b></p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
11	釧路湿原を一周できるフットパス&ホースライディング	<p>ある意味、釧路湿原は国が政策事業として行った失敗事業地ともいえるわけで、それを今の時代にふさわしいように環境配慮型の自然復興事業をしているわけだから最近テレビバラエティー番組で流行している「失敗先生、俺みたいになるなよ」的部分はあるのだから、あたらしい発想の失敗があってもよいのかもしれない。</p> <p>■湿原の環境を維持しながら：</p> <p>自分たちは釧路湿原が国立公園に指定される前の1987年6月に釧路湿原をほぼ馬で1周するとさん馬キャラバンを行いました。その時に道々1060号線を移動しているときに後方からの通行車両から「このツアーはどこに申し込めばよいのですか？」と聞かれたことがあって驚いたことがありました。</p> <p>もちろん、馬が歩けないようなところは「馬運搬車(通称馬(ば)運車)」も使用しましたが、あれから30年が経過して湿原西側の整備が進んだので、今後北側と東側の整備を進めることによって世界中からのウォーカー&amp;ホースライダーを呼び込むことができます。</p> <p>題して「<a href="#">釧路湿原一周フットパス&amp;ホースライディング120km</a>」です。</p> <p>その時のキーワードは「健康」で後述します。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回 答 要 旨	回 答 全 文
11		<p>まず、湿原中央部を北・西・東・中央部と4区切りにします。</p> <p>仮に湿原西側の次年度完成する温根内VSを発着地とすることにします。</p> <p>スタートして道道53号線を北上します。鶴居村下雪裡(しもせつり)まで進んで、ここから同じく道道243号線に入り、冬季には世界中からカメラマンが押し寄せるタンチョウねぐら撮影の世界的メッカ「音羽橋」周辺に休憩所(民家と提携も可)、そこから村道下雪裡1号線に入り一路東へ。途中から湿原の秘境宮島岬へ(駐車場とトイレ有り)岬東側斜面からチルワツナイ川を木橋や吊り橋でむすび対岸のキラコタン岬へ。鶴居村下久著呂岩井内から旧クチョロ軌道跡地(元線路)を通り道々1060号線へ。道々横の軌道跡地を南に進み、二本松橋へ。橋を渡り、サルルン沼から塘路駅まで新・木道設置(保護と利用原則)塘路駅からは民有林道やJRを利用して達古武沼湖岸道路経由細岡ビジターズラウンジ着。もともと、細岡大観望は釧路ユースホテルに宿泊していた旅人達が「湿原眺望がすばらしい」と細岡駅から歩いて行っていたところだから、今度はビジターズラウンジから西側斜面に通じる歩行路を開削して防爆とした阿寒連山や湿原を感じながら岩保木反射板まで行き、岩保木水門に降りる。もし、この先JR北の路線見直しで釧網本線が廃止にでもなればさらに別の歩行路も可能かもしれない。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回 答 要 旨	回 答 全 文
11	<p>空気浴(森林浴)で成人病予防の健康増進が釧路湿原でできることをアピール</p>	<p>水門からは、新釧路川を南下、釧路湿原大橋で右折して釧路川右岸築堤に入り温根内まで16km歩いて温根内ビジターセンターに到着。1周約120km</p> <p>ルート上の最大の課題は宮島岬とキラコタン岬を結ぶ「木橋&amp;吊り橋」だが、湿原自体は国有地、特別保護地区、天然記念物指定地域であるが世界的歩行路という観点だから最小限度の負荷を考える。</p> <p>フットパス造成に関しては民有地の買収があるが、ルート上の不在地主などは調べてみないとわからないが、本ルートが完成した時の誘因効果はわが国最初のラムサール条約締結湿地として世界中のウォーカーの憧れになると考えられる。</p> <p>■(観光商品開発・湿原利用ガイドライン・観光支援施策:</p> <p>さらに、自分が聞いている話によると北欧スカンジナビア半島(スウェーデン、デンマーク、ノルウェー)などには世界中からウォーカーが集まり、認定ガイドがお客様を案内したことを証明すると、母国に戻り予防医学の見地から旅行費用の補助制度があり、請求可能とのことである。わが国も2020年東京五輪・パラまでに議員立法で特別健康増進法を成立させて<b>空気浴(森林浴)でNK細胞の増加を促進することにより成人病予防の健康増進が釧路湿原でできることをアピール</b>して人々を吸引する。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
11	<p>現・釧路市で行われている夏季滞在を広範囲に実施、「クール道東」を売り込む</p> <p>世界から押し寄せるカメラマンのための滞在施設を建設</p> <p>あたらしいロゴマークなどのコンペ</p>	<p>■将来に渡って：自分は英語が話せないが、これからの観光は、すべてが世界を相手にすることになります。しかし、国内の若い人の生活給もあがらず、観光対応現場にくる人はリタイアした人くらいしかのこりません。自動通訳機が開発されるとよいな～</p> <p>温暖化の進行で、本州では体温以上危険高温地域もめずらしくなくなってきた。<b>現・釧路市で行われている夏季滞在をもっと広範囲に実施</b>して国策として北海道選出議員提出の議員立法として6月に北上、9月に南下「本州脱出助成費50%、往復3万円程度」を制定して、「<b>クール道東</b>」を<b>売り込む</b>。「夏北冬在(かほくとうざい)」つまり夏客には涼しいを売り、冬はタンチョウや流氷などの<b>世界から押し寄せるカメラマンのための滞在施設を建設</b>する。地域への効果は職住交通、医療、観光で100億程度と想定される。</p> <p>■(自然再生活動への取組・湿原保全活動による生産品のブランド価値向上策 釧路湿原の有する生態系サービスや物理的条件で釧路湿原が世界一である現状を洗いなおして、これが「ぶっちぎり世界的財産」というものを確認したうえで、<b>あたらしいロゴマークなどのコンペ</b>をおこなう。湿原、失言、キラ&amp;宮嶋岬、ノロッコ号、湿原ホテル、ヤチハンノキ、ヤチボウズ、カヌー、キタサンショウウオ、津波堆積物、海跡湖、4市町村連携マーク(S・T・K・k)を作り、国際観光連合にプレゼンする。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
11	<p>鉄道友の会の協力で、再び湿原開拓軌道を運行する</p> <p>地元造船業と連携して観光ホバークラフトを建造、MOOから釧路川をラウンド観光できるようにする</p>	<p>釧路湿原自然再生事業が開始になったときに「釧路湿原自然再生方式」を世界的な湿原教育に寄与できるような「釧路湿原研究センター」の構想があったが、いまだかつて日の目をあびていないし、湿原まんじゅうやわずかな乳製品そして鶴居村を中心とした湿原Mapも上市されているが、ほとんど地域活性化に寄与できていない。最近は見かけることもなくなった。つまり、物を作ってそれで終了となっている。</p> <p>総合的な湿原シンクタンクとして民間主導の観光&amp;研究所が必要と考える。</p> <p>釧路湿原内陸には現JR釧路駅前から旧鶴居軌道が発着していた、昨今の鉄道ブームを反映して多くの鉄道マニアが国内から世界中を旅しているのだから、<b>鉄道友の会の協力で再び、湿原開拓軌道を運行する</b>ことはできないだろうか？コースは湿原西側釧路市北斗の湿原公園事務所から、約6km北にある温根内ビジターセンターまでで、すべてではないが、軌道跡もあるし、大島川鉄橋もある。「美しいにっぽんの歩きたくなる道500選」コースでもあるので歩車分離式にして4年後をめざせば十分可能ではないかと思われる。</p> <p>さらに<b>地元造船事業者と連携して20人乗りの観光ホバークラフトを建造してMOOから釧路川を北上して、岩保木水門で新釧路川におろし、釧路港からMOOへ戻るラウンド観光</b>も可能ではないか。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
12	<p>外国人観光客の個人旅行化にあわせた情報発信</p> <p>アウトドア系代理店によりファミトリップを実施</p> <p>提供する商品の見える化、オーダーメイドのためのコーディネート機能の支援</p>	<p>体制および支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>外国人観光客</b>は、団体旅行から個人旅行へ、また国別ではアセアン諸国の増加など変化が見込まれます。<b>ルールや責任範囲の明確化、情報発信の多言語化を推進</b>し、その上で価値ある体験を適正価格で提供することが事業の継続に必要なだと思われます。</li> <li>・ 一般的な観光振興系とは別に、<b>環境系、アウトドア系に強いもしくは専門とする代理店を対象とした、よりテーマを絞ったファミトリップを実施し、PRやニーズ調査をする</b>ことも重要だと考えます。</li> <li>・ 関連事業者は小規模事業者が多いので、<b>提供する商品の見える化、オーダーメイドのためのコーディネート機能の支援</b>が必要だと思います。また、カヌーやレンタル備品の購入等には多くの資金を要するので各種支援も検討する必要があると考えます。</li> <li>・ 観光客(日本人、外国人)の滞在時間、行動、消費額など基本データの調査収集を行なった上で、保護、保全と経済の好循環を実現するためのPDCAが必要だと思います。</li> </ul> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
12	<p>駅や市中心部に湿原観光の拠点やサテライト機能</p> <p>釧路湿原国立公園アクティビティカレンダーの作成</p>	<p>情報発信と相談・コーディネート機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光や体験のための各種情報を含め提供、相談(コーディネート)、事業者とのマッチングまでを一括取扱できる体制が必要だと考えます。拠点として、エコミュージアムセンターがありますが、科学的データの蓄積や学習機能は充実している一方、体験や観光商品サービスとの橋渡し機能などに関しては良く分かりません。学習だけではなく、どのようなサービスと機能があるかをPRし、関連民間事業者との連携や活用方法等も分かると有益だと思います。</li> <li>・ 宿泊や食事の拠点となる<b>駅や市中心部に湿原観光の拠点やサテライト機能</b>があるといいと思います。</li> <li>・ 周遊やドライブ型の観光客の知りたい情報は、自分が行く予定の何月何日に何が出来るか、もしくは今日、明日どこで何が出来るかだと思います。協議会の主催する大規模イベントから、各専門官が手作りする少人数の体験会やガイドツアーなど様々なものがあると思いますが、現状では情報の入手がかなり困難です。(組織や施設ごと、媒体多様化、SNSの事前登録等々、予備知識が必要)<b>釧路湿原国立公園アクティビティカレンダー</b>のようなものがあると観光客、関連事業者双方にとって有益だと思います。</li> </ul> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
12	車以外の旅行者のための公共交通機関アクセス情報や、モデルルートの設定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 個人旅行者や長期滞在者の中には車を持たず、徒歩と公共交通機関のみで生活をしている人も多くいます。各種アクティビティの情報提供に当たっては、<b>公共交通機関でのアクセス(時刻表やバス停など誰でも分かる)情報や、モデルルートの設定</b>も必要であると考えます。</li><li>・ 国立公園先進国の事例研究</li></ul>
13	長期滞在中で味わえる魅力を発見し、滞在期間を長く取るような取り組み	<p>広大な面積を有する釧路湿原では、やはり「秘境」としてのスポットがまだ多く残されていると思います。</p> <p>そういった場所の新たな発見と、そこを「見せる」手段としてこういったことが考えられるのか難しい問題であると思っております。</p> <p>また、長期に滞在しないと味わえない「もの」や「こと」を発見し、<b>滞在期間を長く取っていただけるような取り組み</b>ができないでしょうか。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
14	アクリル製のトンネルを渡す事により、遡河性魚類等を下から観察する場を創る	<p>まず、岩保木水門を開ける事。これにより水門より下流域の蛇行が、ほとんど予算を掛けずに再生出来ます。また、サケ・マス、シシャモ等の遡河性魚類が釧路川を昇り、湿原で産卵する事により、原種の遺伝子が残せますし、遡上魚種が増える可能性も出て来ます。</p> <p>観光面では、上流域から下ってきたカヌーは、現在は、ほとんど細岡のカヌーボートで揚がってしまっていますが、水門が開けば、岩保木を経て幣舞橋まで下ることも可能に成ります。更に、水門の所で遡上するサケ・マス等も見ることができるようになりますし、<b>幣舞橋上流部にアクリル製のトンネルを渡す事により、遡河性魚類等を下から観察する場を創る</b>事も可能になります。</p>
15	釧路湿原と道東の他の5つの登録湿地を結んだ観光商品を開発・PR	<p>釧路湿原の潜在的な魅力は道外や海外に向けて十分発信されているとは言い難い。地元ではローカルな話題を集める一方で、貴重な湿原環境を保全するために、産学官が協力して取り組みを進めていることについては首都圏などではほとんどニュースにならない。<b>道東には釧路湿原以外にも5つの登録湿地があり、これらを結んだ観光商品を開発・PRすることで広く自然再生の取組を知ってもらう</b>とともに、観光支援につなげてはどうか。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問① 賢明な利用によって湿原の魅力度が向上する観光のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
16	湿原観光の際に弁当を注文出来るシステムと、売上の一部の自然保全への還元	<u>湿原観光の際、事前にお弁当を注文出来るシステム。複数の弁当業者から選べる仕組み。売上の一部を自然保全へ。</u>

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

- 「地元産業と他の団体が協力すると、こういう事ができるのではないか！」というアイデアや、あなたが「地元産業へ、こんな協力をしたい！」と考えていることは？
- 将来に渡って釧路湿原を利用していくために、産業や地域のくらしの中で環境や景観を守るために必要だと感じていることは？  
(自然再生活動への取組・湿原保全活動による生産品のブランド価値向上策 など)

※回答の並びは順不同です。また、回答して頂いた設問欄と整理後の設問欄が異なる場合があります。

## 回答のまとめ〔設問②〕

### 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

#### ■農業・漁業などの産業間の連携

No.	回 答 要 旨
19	農業や漁業の担い手に湿原の魅力を知ってもらうツアーの実施と、意見交換の機会づくり
24	流域の産業各分野との自然再生コミュニケーション

## 回答のまとめ〔設問②〕

### 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

#### ■湿原保全活動による産業のブランド向上策

No.	回 答 要 旨
19	釧路湿原の自然環境に配慮した地域産業の取組を認証・付加価値をつけ、集約してPRする
26	「〇〇活動を推進しています」等、事業参加による企業イメージの向上やPR
27	地元企業や産業全体が釧路湿原の環境を守っていることをセールスポイントにできる仕組みづくり

## 回答のまとめ〔設問②〕

### 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

#### ■湿原の価値を活かした商品開発

No.	回 答 要 旨
20	湿原の植物から健康食品を作る
22	野生鹿肉ハムの高級ブランド化
25	湿原食品(ジャムや香料)
25	丹頂ダイコンや釧路草原ビーフ、丹頂イチゴなどのローカルブランドを地元民で立ち上げる
25	ミズゴケの商品化(盆栽マニアにとって高値の花)

## 回答のまとめ〔設問②〕

### 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

#### ■周辺住民等に対する理解・啓発

No.	回 答 要 旨
23	釧路湿原に隣接する住民の方々や、企業に対しての啓発活動
25	湿原周辺の大規模法人酪農工場などでの子供の職業体験

## 回答のまとめ〔設問②〕

### 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

#### ■ その他

No.	回 答 要 旨
17	新たな生態系サービスの創出
18	海岸域での食物連鎖が豊かに成る事によって、海草類や魚類が増える事が保証される
21	農業の土地改良で土砂流出の少ない改良方法を取り入れ湿原や下流域を保全
24	湿原開拓期の暮らしを語っていただき、記録に残すとともに発信する

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
17	新たな生態系サービスの創出	<p><b>新たな生態系サービスの創出</b>(自然資源を獲るから体験させるへ)*****</p> <p>カナダ・アラスカ・ニュージーランド等のレクリエーショナル・フィッシングを重視したグリーンツーリズム先進国や国内においても九頭竜川などでは、釣りに対して一定のレギュレーションがあります。既に釣り人にとってブランド化している水系では、釣り人は流域生態系の管理に対する責任と義務を負ってレクリエーションを楽しむという前提が有るのです。自然資源を対象として自分が楽しむ場合、対価を払うのは当然という考え方に則っています。</p> <p>しかし、現在の釧路川の利用はサケ・マス資源の捕獲に重点が置かれすぎていると考えられます。例えば、国立公園に流入する河川に二ヶ所のウライ(サケマスの親魚を捕獲するための魚止め)が設置され、サケ科魚類の回遊阻害の大きな原因となっています。国立公園に遡上する魚類よりも、水産資源としてのサケ・マスを重視するという地方政策は、もはや見直す時期であると考えられます。少なくともサケ・マス増殖事業を目的とした水系とラムサール条約登録湿地を含む水系とは別々の管理指針の下におかれるべきではないでしょうか。</p> <p>ルール作りの遅れは、生態系を直接的に劣化させるに留まらず、地域ブランドと生態系サービス享受者のモラルの低下を招く原因となっています。また、美的景観の喪失は環境客の期待を裏切ることに直接的につながり、リピーターを大きく減少させている一因になっていると考えられます。釧路川での体験を通じて、釣り人が一段階環境意識の高い存在になれるような、そんな場所にしたいと考えています。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
18	<p>海岸域での食物連鎖が豊かに成る事によって、海草類や魚類が増える事が保証される</p>	<p>孵化事業ばかりで無く、自然産卵での魚類も増え、なおかつ海へ多くのフルボ酸鉄が流入する事によって植物プランクトンが増え、それを食べる動物性プランクトンも増えて、<b>海岸域での食物連鎖が豊かに成る事によって、海草類や魚類が増える事が保証される</b>と思います。</p>
19	<p>農業や漁業の担い手に湿原の魅力を知ってもらうツアーの実施と、意見交換の機会づくり</p> <p>釧路湿原の自然環境に配慮した地域産業の取組を認証・付加価値をつけ、集約してPRする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>農業や漁業などの地域産業の担い手をメインターゲットにした、湿原の魅力や自然再生事業を知ってもらうようなツアーの実施。また、農業や漁業などの地域産業の担い手の方々と継続して意見交換できるような機会作り</b></li> <li>・ 地域産業の取組と釧路湿原がどのようにつながっているかを明確にし、見える化を行う。</li> <li>・ <b>釧路湿原の自然環境に配慮した地域産業の取組を認証・付加価値をつけ、集約してPRすること</b>で釧路湿原にとって良いことをすることが、得をするような仕組みづくりを行う。ワンダグリンドの拡大。</li> </ul>

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
20	湿原の植物から健康食品を作る	・ <u>湿原の植物から、健康食品を作る。</u>
21	農業の土地改良で土砂流出の少ない改良方法を取り入れ湿原や下流域を保全	<u>農業の土地改良において、土砂流出の少ない改良方法を取り入れ、湿原や下流域の保全</u> を考えていきたい。
22	野生鹿肉ハムの高級ブランド化	<u>野生鹿肉ハムの高級品(ブランド化)促販</u> ・ブランドup ・獣害(食害防止)環境保全寄付額込みで販売 ・有名ホテル、コック長、推薦を得る。ホテルメニューに加えてもらう。
23	釧路湿原に隣接する住民の方々や、企業に対しての啓発活動	自然環境の保全は個人の意識付けが重要であることから、 <u>釧路湿原に隣接する住民の方々や企業に対しての啓発活動</u> が必要だと考えております。

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
24	<p>流域の産業各分野との自然再生コミュニケーション</p> <p>湿原開拓期の暮らしを語っていただき、記録に残すとともに発信する。</p>	<p>1) <u>流域の産業各分野との自然再生コミュニケーション</u>            ⇒ プロジェクトチームを設置し、酪農家、漁業者、飲食業、宿泊業等、各部門との対話の場を設け、共通利益を見つける。(現在は対話機会が不足しており、双方の意向がマッチしていない?)</p> <p>2) 産業分野から参画する仕組みの検討            ⇒ 自然再生への直接的な参加はもちろんのこと、間接的な支持表明を可視化する仕組みをつくる。(①の延長線? 思いを語っていただくだけでも意味がある。ワンダグリンドの発展型?)</p> <p>3) 人と湿原の関わりの物語の記録            ⇒ <u>開拓期～開発期を記憶している方に、「昔の暮らしと湿原」を語っていただき、記録に残すとともに発信する。</u>(郷土史誌づくり等との連携も可能か?)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
25	湿原周辺の大規模法人酪農工場などでの子供の職業体験	<p>■「地元産業と他の団体が協力すると： 1980年のラムサール条約締結湿地の時にも「保護と利用」を掲げて国内第1号指定湿地になり、1987年の国立公園指定や、2003年の自然再生推進法に基づく釧路湿原自然再生事業も「地域活性」が多うたわっていたのに、実際には一部の観光業者や運輸関係そして行政関係者や研究者だけが国立公園やラムサール指定湿地のエリア内で細々と続けていて湿原のブランド化につながっていない。</p> <p>現在の湿原周辺の酪農は大規模法人化と既存小規模酪農の2極化が進んでいる。</p> <p>JAや地域農事組合の協力を得て、<b>大規模法人酪農工場における</b>搾乳ロボットやフリーストールを早朝&amp;夕方に観光客に見せたり、大型農機具運転や修理等を体験させることは可能と考える。その延長線上に乳製品製造体験を結びつけることもできる。<b>子供たちに様々な職業を体験</b>させるキッズニアの地方版をつくり来訪者に経験させる。昼間ではなく早朝や夜、雨天時のみの体験、強風時限定体験などの常識観光時間以外の変則時間での体験メニューの構築。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
25	<p>丹頂ダイコンや釧路草原ビーフ、丹頂イチゴなどのローカルブランドを地元民で立ち上げ</p> <p>湿原食品(ジャムや香料)</p> <p>ミズゴケの商品化(盆栽マニアにとって高値の花)</p>	<p>■将来に渡って：          そこで1万人規模の交流人口拡大によつての需要は、来た人にお土産を売りつけることではなくて、その地で何ができるか？できたか？をサポートするシステム作りが重要です。  <u>丹頂ダイコンや釧路草原ビーフ、丹頂イチゴなどのローカルブランドを世界に発信する共同販売組織を地元民で立ち上げ</u>、海外バイヤーに売りこみをかける。</p> <p><u>湿原食品(ジャムや香料)、ミズゴケ</u>(現在国内で販売されているものはほとんどオーストラリアやニュージーランド製)だから盆栽マニアにとって国内産は高値の花になっている。</p>
26	<p>「〇〇活動を推進しています」等、事業参加による企業イメージの向上やPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>一般企業や、事業所が参画できる事業があれば、企業イメージの向上やPRに活用できる可能性があります。(〇〇運動に参画しています 売上の一部を〇〇基金に 〇〇活動を推進しています 等々)</u></li> <li>・ 農業や漁業において、成分や味などに影響する湿原ならではの特性を科学的に立証、情報提供いただければ、製品のストーリー作りやマーケティングにおいて活用できる可能性があります。</li> <li>・ 一般企業や事業所にとって、湿原との関わりはイメージし辛いことです。逆に湿原において様々な活動を展開している民間団体やNPOなどからリクエストや関わり方のきっかけを提示していただけるとイメージしやすいかも知れません。</li> </ul>

# アンケート・回答全文

## 設問② 湿原の価値を活かした農業や漁業との連携のあり方について

No.	回答要旨	回答全文
27	地元企業や産業全体が釧路湿原の環境を守っていることをセールスポイントにできる仕組みづくり	<p><u>地元企業や産業全体が釧路湿原の環境を守っているということをセールスポイントにできるような仕組みづくり</u>ができれば良いと思います。</p> <p>今は、安くなければ消費者に買ってもらえないという風潮がありますが、高くても売れるということが今後大事であり、その一つとして、例示されているように湿原保護などへの取組によって付加価値が高まるような産業のあり方が必要なのかも知れません。</p> <p>「私達が、湿原を守っているんだ！」という自負心が必要なのかも知れません。</p>

## 設問③ 今後の議論の進め方について

■今後の地域づくり小委員会での議論の進め方や、方向性について

※回答の並びは順不同です。また、回答して頂いた設問欄と整理後の設問欄が異なる場合があります。

## 回答のまとめ〔設問③〕

### 設問③ 今後の議論の進め方について

#### ■小委員会の開催日時について

No.	回 答 要 旨
30	ウィークデーの昼間以外に開催し、参加者を増やす
34	多くの人出席しやすい時間帯に開催

## 回答のまとめ〔設問③〕

### 設問③ 今後の議論の進め方について

#### ■委員の構成について

No.	回 答 要 旨
29	若い世代、外部から来た住民、独特の才能や経験を有する人の意見と行動力を積極的に取り込む
35	幅広い年代層の参加を希望

## 回答のまとめ〔設問③〕

### 設問③ 今後の議論の進め方について

#### ■小委員会の進め方について

No.	回 答 要 旨
29	出版など目標を先に具体的に固め、それに向けて時間を逆算し作業を進めていく
31	テーマを絞り、議題について事前に質問表などを配布し、会議の前に集める
32	観光客への大規模アンケート実施による課題や観光資源の発見
33	多人数のためグループ分けが必要
34	資料説明は短く速やかに議題に入る
36	地域振興に関して国や道庁・振興局、各市町村の取組みの情報を持ち寄り共有
36	観光振興と利用ガイドラインをセットで検討する

## 回答のまとめ〔設問③〕

### 設問③ 今後の議論の進め方について

#### ■その他

No.	回 答 要 旨
37	地域づくり小委員会の運営などを行うことができるような地元NPO団体等の育成

# アンケート・回答全文

## 設問③ 今後の議論の進め方について

No.	回答要旨	回答全文
29	<p>若い世代、外部から来た住民、独特の才能や経験を有する人の意見と行動力を積極的に取り込む</p> <p>出版など目標を先に具体的に固め、それに向けて時間を逆算し作業を進めていく</p>	<p>議論参加者の多様化と成果物の明確化*****</p> <p>地域づくりのPDCA の為に、<u>若い世代、外部から来た新しい住民、独特の才能や経験を有する人の意見と行動力をより積極的に取り込む</u>べきであると考えます。地域再生成功のキモは、よそ者・若者・地域のキーパーソンというのは今や定番です。</p> <p>例えば釧路川流域には、環境保全意識の非常に高い釣り人が多数おられます。海外での公式プロガイド資格を持っているガイドさんや、内地からの釣り客を対象に長年宿を経営しているような方々です。彼らにはレクリエーショナル・フィッシングと河川生態系がよりよく共生するための知識と豊富な経験が有ります。彼らの意見を真摯に聞き、小さな改善でも、出来ることから「形にする」事が重要であると考えます。</p> <p>一案ですが、<u>目標を先に具体的に固めておき(例えば2018 年度版:釧路川フィッシングガイドブックを出版するとか)それに向けて時間を逆算し、作業を進めていく</u>ことが必要だと考えております。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問③ 今後の議論の進め方について

No.	回答要旨	回答全文
30	ウィークデーの昼間以外に開催し、参加者を増やす	行政主導の委員会ですから、なかなか難しいのは解りますが、 <u>ウィークデーの昼間に会議を開催しても、民間で働く現役世代は、なかなか参加出来ないと思いますので、一考してもらえれば、参加者も増える</u> と思います。
31	テーマを絞り、議題について事前に質問表などを配布し、会議の前に集める。	<u>人数が多いので、テーマを絞り、議題について事前に質問表などを配布し、会議の前に集めては</u> と思います。
32	観光客への大規模アンケート実施による課題や観光資源の発見	・ <u>観光客への大規模アンケート実施による課題や観光資源の発見</u>
33	多人数のためグループ分けが必要	小委員会というには <u>少々多人数であるためグループ分けが必要</u> ではないかと思います。
34	資料説明は短く速やかに議題に入る 多くの人出席しやすい時間帯に開催	会議の初めに資料の説明がありますが、時間がもったいないので <u>速やかに議題に入ることが望ましい</u> と思います。 <u>平日の日中の会議の開催は出席できる人が偏ります。多くの人出席しやすい時間帯に開催されることを希望</u> します。

# アンケート・回答全文

## 設問③ 今後の議論の進め方について

No.	回答要旨	回答全文
35	幅広い年代層の参加を希望	<p>最近の再生協議会(全体&amp;小委員会)会合でも若い人(学生:公立大、教育大、短大)の参加は見たことがない。参加しているのは通常組織人(法人、企業)か行政マン、研究者程度である(自分も一応組織人として参加)</p> <p>新聞報道などでは町おこしやにぎわい復活などでは、結構学生参加が多くて、その意見もおっさんや業界経験の永い人では声にしないうような意見が多い。</p> <p>つまり、未来ある若者たちの声にいかにおっさんたちが現実的肉盛をするかが、昨今のこの手の団体に求められていると思う。</p> <p>会議をしている時間が悪いのか？ 湿原再生などということを論じている団体があることもしられていないのかただ単純に興味がないのかもしれない。</p> <p>「釧路湿原」なら知ってるよ。「自然」幅が広すぎて絞り込むのがたいへんそう。「再生」最近よく使っているよね。リストラのことかな。「協議会」研究者とか業界代表者とかおじさんたちがいっぱいいる感じだね。(サイレントマジョリティー風)</p> <p>昔の街おこしの3つのキーワードは「女性・老人・外国人」で頭文字をとって「〇・〇・〇」でした。</p> <p><b>幅広い年代層の参加を希望</b>しています。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問③ 今後の議論の進め方について

No.	回答要旨	回答全文
36	<p>地域振興に関して国や道庁・振興局、各市町村の取組みの情報を持ち寄り共有</p> <p>観光振興と利用ガイドラインをセットで検討する</p>	<p>① 第1回目に発言しましたが、<u>地域振興に関して国の機関や道庁・振興局、各市町村が全体としてどのような取組みをしておられるのか、まずは情報を持ち寄って共有</u>していただくことが有用かと思います。</p> <p>② 自然再生協議会で扱う以上、<u>観光振興と利用ガイドライン</u>は一体不可分ですので、これらを<u>セットで検討する</u>分科会を設けては如何でしょうか。<u>一次産業との連携は、お互いの状況やニーズを共有することから必要と思われ、分科会というよりは、正副委員長・事務局・有志委員等によるチームを設置し、前述の対話やヒアリング等からはじめてみては如何でしょうか。</u></p>
37	<p>地域づくり小委員会の運営などを行うことができるような地元NPO団体等の育成</p>	<p>・<u>釧路湿原の保全・再生の促進と地域振興の両立の取組や、地域づくり小委員会の運営などを行うことができるような地元NPO団体等の育成</u>が必要であると思う。</p>

## 設問④ その他

- その他、委員の皆さんと話し合いたいこと等

※回答の並びは順不同です。また、回答して頂いた設問欄と整理後の設問欄が異なる場合があります。

# アンケート・回答全文

## 設問④ その他

No.	回 答 全 文
38	<p>釧路湿原をフィールドとしたり、テーマとして取り組んでいる地域活動(個人、企業含む)を調査し、協力連携するためのフレームづくりを検討したい。</p> <p>概念的ではない具体的に！</p> <p>普及委員会のリストアップもベースになると思う。</p>
39	<p>なにか言えば、「その予算はどこからもってくる」「省庁や行政がかぶさっているから無理」「〇〇法の規制対象だから無理」となる。</p> <p>昨今、観光の世界では広域連携が当たり前になっていて、例えば、タンチョウの撮影で鶴居村に宿泊しようとしても村内キャパの関係で釧路市内の大型系列ホテルに泊まって、早朝の音羽橋へレンタカーやタクシー利用できている。湿原東側JR釧網線のノロッコ号で塘路まで来た個人客が鶴居村のカヌー事業者とともに川下りをして釧路市内の宿泊施設へ向かったり、標茶町内の事業者が鶴居村の宿泊施設に運んだりしている。</p> <p>この地域の不思議さは、観光一つにしても、総合的オールラウンドの観光インフォメーションセンターさえないことである。</p> <p>ネット時代だからカヌーも馬も宿泊もダイレクト予約ができる時代ではあるが、人と人とのフェイスコミュニケーションがおいてけぼりになっている。</p> <p>(→次頁へ)</p>

# アンケート・回答全文

## 設問④ その他

No.	回 答 全 文
39	<p>◎釧路湿原で内陸性湿地を体験した人は海浜性湿地である霧多布湿原に行きたいかもしれない。</p> <p>◎標茶町内の手作りのおいしいパン屋さんを知りたがっているかもしれない。</p> <p>◎釧路町の大型店のシネコンで地元では見られなかった大作を上映しているかもしれない。</p> <p>◎鶴居村にあるベーグルのおいしい店の2Fからの湿原風景をみながら飲むコーヒーがメチャンコうまいことを経験したいと思っている人がいるかもしれない。</p> <p>JR駅前にそんなことを教えてくれるセンターがなぜないのだろう。不思議です。 英語、中台語が話せる人2名で年間2千万あれば設置が可能です。</p> <p>以下は釧路湿原全体構想2015年3月改定に記述されてる成果目標ですが、その通りだと思います。</p> <p>① 自然再生と地域の産業・文化の振興を両立させる具体的な取り組みが事業化、政策化され、自立的、継続的に進められている状況を目指します。</p> <p>② 湿原の利用に関するガイドラインやルール作りを進めます。</p> <p>③ 産業や暮らしの中での環境負荷軽減や景観の配慮が進み、地域で認知、定着するとともに来訪者にも伝わっている状況をめざします。(施策において達成すべき目標、目指す状態(成果目標))</p> <p>上記は2015年3月改正の自然再生全体構想(自然再生を通じた地域づくりの推進から) P・D・C・Aサイクルは間違っていないだから、行われてきたことの検証をすすめ、Nextという目を持つことが大事であるが、本事業は予算というものが行政以外はないのだから、そろそろ協議会が独自予算で小さな組織でも活動できるようにするべきなのではないかと思うので、そこらの議論をしたい。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問④ その他

No.	回 答 全 文
40	<p>野生のサケ・マス資源の回復に向けた取り組み*****</p> <p>レクリエーショナル・フィッシングの再評価についてこれまで書きましたが、釣り人が良い思い出を抱くためには、景観の保全と同時に魚類の資源量を維持可能な流域生態系の豊かさが前提となります。例えば、野生のサケ・マスの陸域での生活史を出来る限り原生に近いものとし、遡上区間や自然産卵域をより拡大するためには何ができるでしょうか。例えば現在のニヶ所のウライの位置を元々あった上流の場所(鶴居村芦別川と弟子屈町美留和川)に戻すとか、採算性の合わなくなった施設の規模を縮小する等が候補となるはずで</p> <p>す。</p> <p>釧路川は自然再生事業によって流路という形状は大きく変わりました。しかし、そこには未だ本来の自然生態系は戻っていないと考えられます。ウライという構造物はサケ・マスの親魚を捕獲するために設置されたものですが、他の回遊性魚類の移動に対して大きな障害となっていることは確実です(写真1.)。流域全体での魚類の資源回復のために、国立公園直下の河川区間に設置されているウライの「設置個所」と「設置期間」という現状の見直しから始めることを提案いたします。</p>
41	<p>酪農における草地改良では、大雨が降ると、土砂が流れてしまう。最小限にくいとめる方法を、研究したい。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問④ その他

No.	回 答 全 文
42	<p>①に関して:意見ではありませんが、当連盟の取組について記させていただきます。</p> <p>26・27年度、関東地域(千葉県、茨城県)の歩こう会を誘致し、釧路湿原(市展望台から温根内、キラコタン岬)を中心にウォーキングツアーを実施しています。(平成28年度は事情により中止し、来年度実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・26年7月 人員 9名(男性6名女性3名:平均75歳・最高90歳)</li><li>・27年6月 人員26名(男性12名女性14名:平均65歳・最高80歳)</li></ul> <p>※前年参加者の口コミ効果が大い ※6月実施は花を多く観賞でき、旅費(航空・宿泊)が安い。</p> <p>☆感想(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・空気が美味しい(第一声)</li><li>・土を踏みしめての感触がたまらない。(道外コースの多くは整備されすぎている)</li><li>・情景が素晴らしい。</li></ul> <p>☆誘致にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国内を歩いており(一部は海外も)旅費にはシビア</li></ul> <p>※お土産には支出</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・二次交通の組立が難しい</li></ul> <p>◎他の湿原等にも関心を持っており、今後も釧路湿原と合わせウォーキングツアーの誘致継続を図っていききたい。</p>

# アンケート・回答全文

## 設問④ その他

No.	回 答 全 文
43	<p>流域で考えると想定した場合に</p> <p>【答えになっていませんが、今、思うこと】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 流域の自治体、産業(林業・農業・漁業(内水面内水面も)との繋がり・協力が他の地域から見ると、脆弱ではないでしょうか？</li><li>・ 大凡の流域連携のデザインを委員会で作成し委員に示すべきです</li><li>・ 民は個人的に活動している方はいますが連携が有りません。管内自治体や団体も連携が弱いのではないのでしょうか？今の組織では、いくら声をかけても活動・協力があり、意見が出てくるのか？疑問であり、協力を得ることが難しいと思います。委員会はその様にアピールし、何処を切口として入っていくのか？分かりません。</li></ul> <p>【結論】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 議論の場が、少なすぎるというより、何も議論していないのでは？無いのでしょうか。</li><li>・ 3回程度の間隔を空けない議論が必要で、そこからアイデアが出てくると思います。</li></ul>